

ルート選定についての再質問

平成11年6月14日福山市都市計画課が、福山道路にかかわる環境評価準備書について回答を環境調査室に出しています。

その中で、ルート選定に当たっては、環境面も含めさまざまな条件を考慮しており、ルート選定の考え方は以下のとおりである。

としている書かれています。その中の⑥として

長和IC、瀬戸JCT、赤坂IC
福山沼隈道路との連結のため長和ICを瀬戸池の北側で計画し、
計画中の福山西環状線及び使用中の赤坂バイパスを有効的に活
用できるルートを選定。途中のため池、住居、神社等をコント
ロールしながらルートを選定。

と、このように書かれています。ため池、住居、神社等をコントロールしながらルート選定と言うことは、赤坂バイパスを有効的に活用するためには、山北上野内会をばつさりかけ、道が出来からおまえ達はそこを立ちのけと言ひ、住んでる人の気持ちを踏みにじるルートでも、国が発表したルートは変えない、変わらないのだからあきらめろ、なんぼゆうてもいうしよと言わせるようにコントロールしようとしているのですか、人々の気持ちまでコントロールする事は出来ませんか。

さて又芦田川西水呑地区では出来るだけ住宅地を避ける、と書いていますが、瀬戸地区で避けようと思えばいくらでもあるのでは無いですか。

瀬戸地区でも住宅地を避けて下さい。

今回計画されている道路は停滞を解消するためと説明されていますが、ただ道をつくれば良いではなく、道をつくって瀬戸町の町をどのような町にしようとしているのか、設計協議で検討するのではなく計画段階にてして下さい。

停滞が解消すればよいだけではなく、そこに住んでいる住民に優しく住み良い設計でなければいけません、一番大事なことが抜けています、又年寄り子供達の車に乗らない人には配慮が無い計画です。建設工事がいる人、家を立替を待っている人の為の、計画ではいけません。

答

公共事業の位置選定は必ず利害関係を生じる事から、どの場所・位置を選定しても、相反する御意見が出て参りますが、特に細く長い用地を必要とする道路のルート選定では、その状況が顕著に表れます。

このため、ルート発表や計画案の公表などでも公平性が求められており、特にルートは公正・適切に選定される必要があり、個々の思惑等が反映される事が無いよう、一定のルールに基づいて選定されています。

また、ルート選定に当たっては、河川法など様々な法律との整合が必要となり、安全性・走行性の確保を第一に、道路の規格や位置付けによって、その機能が十分に発揮できるルートを選定する事が重要です。

福山道路等の幹線道路においては、既存の幹線道路と有機的に連絡して、交通処理の理想的な形とされる放射環状型の幹線道路網を実現する事が最大目標です。

よって、最初に各関係道路の結節箇所を検討して、河川はできるだけ直角に近い角度で渡河するなど関係法令との整合を図りながら、遺跡や歴史的文化施設などをコントロールポイントに、安全性・走行性確保の観点から道路構造令で定められている曲線半径や勾配をクリアする中で、経済性・施工性等を総合的に検討して決定されています。

なお、山北地区におけるルートについての考え方は、貴殿あて2006年6月2日付け回答文書でお示したとおりです。